

大洲沼水のおさんの宮

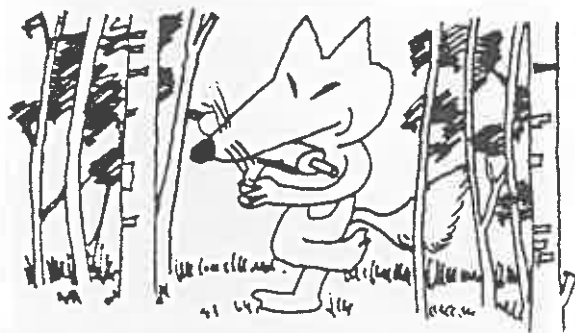
人々は、けものと共に生きて来ました。人とけものまじわりは、おかしくもあり、おそろしくもありました。

特に狐は、古来から人に知られ、いろいろな言い伝えや迷信があり、人をだますと言われていました。今回はこの狐のお話です。

いたずら狐のおさん

旧大洲村沼水におさん神屋（狐）という神社があります。

昔、ここに「おさん」という狐がいたそうです。この狐は毎晩、夜道を通る人を迷わせたり、悩ませていました。ある晩、大洲の陣



昭和五十九年三月五日号

兵衛という人が馬をひいて遅く家へ帰ろうとして、ここを通りかかりました。

すると、この悪狐が「おじさん、馬に乗せてくれる」と言つて出てきました。陣兵衛はこの時とばかり、この狐を馬の鞍にしつかりからげて家に連れて帰り、家の者に言いつけて火あぶりにしました。

狐は、「あつい、あつい」といつて涙を流して助けを乞うたので、陣兵衛さんは、願いを聞き入れて狐を離してやりました。

その後、じいさんがまた遅くここを通りかかる時、また狐が出て「ひつくり、ひつぱり、毛焼の陣兵衛やあい」とからかいました。それ以後も通る人を迷わせたので、付近の村人がおさんの宮に祭つたところ、それからというものは、この狐は決していたずらをしなく

なつたといふことばです。



大洲沼水のおさんの宮